

障がい者の人権

○ ちょっとの気づかいが、笑顔に変わる。

狭い歩道で、駐輪自転車が通行の邪魔をして車イスの人が通れない。でも「どうぞ」と、道をあけてくれる人がいれば大丈夫。

障がい者の目線に立ったちょっとの気づきで、私たちの行動は変わるはず。さあ、みんなが暮らしやすい社会へ向けて。



○ 普段から、障がいのある人の視点で行動しよう。

● 私たちの無意識の行動が、障がい者の行動の妨げに

せっかくの点字ブロックがある歩道でも、その上に自転車やバイク、店舗の看板などが置かれていては本来の意味を果たせません。それどころか視覚障害者の歩行者にとっては、大変危険な場所になってしまいます。障がい者専用の駐車スペースに障がいのない方が駐車をすると、本当にそのスペースを必要とする方が使用できなくなります。

私たちの無意識の行為が、障がい者の自由な活動を狭めてしまうこともあるのです。

● 一見しただけでは、わかりにくい障がいも

障がいというのは、なにも体の障がいだけではありません。体の内部の障がいや、精神障がい、発達障がいなど、一見しただけでは、わかりにくいものもあります。このような障がいのある方々は、誤解を受けることも多く、つらい思いをしていることもあります。だからこそ、障がいの有無にかかわらず、誰もが暮らしやすい社会づくりが大切なのです。

● 心の壁をとって、みんなが暮らしやすい社会へ

障がいのある人もない人も、地域社会の中で同じように暮らせる社会が当たり前（ノーマル）という考え方を「ノーマライゼーション」といいます。普段から障がいのある人の立場で考え、行動をすること。そして「障がい者だから」という先入観を持たずに、障がい者の個性や人格を認め、気持ちに寄り添って自然体に接することが、「心の壁」を取り去る、大切な一歩となります。

○ 一緒に考えよう、障がい者の人権

● 精神障がい

「精神障害者は、何をするかわからないから不安」といった先入観や偏見を持たれがちです。しかし、躁うつ病や統合失調症、人格障がいなど、現代社会には心の病として誰でもなる可能性があり、また病を抱えている人たちも増えています。

決して特別な病気ではなく、適切な治療と支援で、その人らしい生活を送ることができます。

● ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、低床バスや電車、缶ビールに付けられた点字、シャンプーとリンスを区別するためのシャンプー容器の横に付けられたデコボコなど、全ての人にとって使いやすく、安全で分かりやすいことに配慮したデザインのことをいいます。

● 内部障がい

心臓や呼吸機能など、体の内部に障がいのある方は、その不自由さが外見からは分かりにくい

ため、電車の優先席や障がい者専用施設の利用の際に、「障がい者ではないのに」と注意を受けるなど、誤解を受けることもあります。



● 発達障がい

集団生活にうまく溶け込めなかったり、コミュニケーションが苦手だったり、発達に何らかの障がいを抱える子どもがいます。見た目障がいがあることが分かりにくいいため、性格や親の育て方の問題だと誤解されやすく、本人や家族をおいつめてしまうことがあります。